

# 東北ブナ紀行（75）

奥田 博

今を去る40年ほど前、船形山の宮城県側は大規模な伐採が行われていた。その頃に「船形山のブナを守る会」が設立されて情報を発信し始めた。世の中は白神山地の林道開削問題や北海道知床半島の原生林伐採問題と相前後していた時期だった。あの頃の活動により、原生林の伐採は少なくなったが、実は現在も伐採は静かに続けられている。

## 115) 前船形山 鳴溪コース 1312m



船形山を北から登るルートには、ブナが残されている。林道を登山口の鳴溪小屋まで入るが、それまでの林道走行では、伐採された風景を見ることができる。また張り巡らされた林道の多いことにも驚かされた。

登山口からは直ぐにブナ林の中を登っている。ブナの尾根通しを登るが、太いブナや変形したブナなどが楽しめる。沢に沿った道になれば、鏡ヶ池到着となる。神秘的とは言い難いが、静かな池だった。ここから前船形山は、直の距離だが、目ぼしいブナはない。

コースタイム: 登山口(2時間) 鏡ヶ池(30分) 前船形山



登山道では、ブナの根を踏み荒らしながら登る

## 116) 船形山 1500m 大滝キャンプ場～山頂～蛇ヶ岳～大滝キャンプ場



登山口となる大滝キャンプ場までは長い林道走行だが、この道路周辺こそ森林喪失の現場であり、原因となる道路。「船形山のブナを守る会」では年一回発行の会報「ブナの森」によれば1960～70年代の拡大造林全盛時に半分以上が伐採され、スギが植林されたという。しかし登山口となる大滝キャンプ場からは、見事なブナ林が残っており、当時の片鱗を垣間見ることが出来る。

登山口から船形山を目指して反時計回り

で歩き出す。実に素晴らしいブナの森で、この森は標高1300m、前項の前船形山の分岐上部まで続く。登山では、船形山山頂を経て、南に向けて展望の尾根を縦走し、蛇ヶ岳から尾根を離れ三光の宮まで周回する。三光の宮の標高が1200mで、ここから大滝キャンプ場までの下りがブナの見どころ。ジックリと堪能したい。

コースタイム: 大滝キャンプ場(1時間45分) 船形山(1時間) 蛇ヶ岳(1時間15分) 三光の宮(40分) 登山口



9月下旬、上部では紅葉が始まっていた